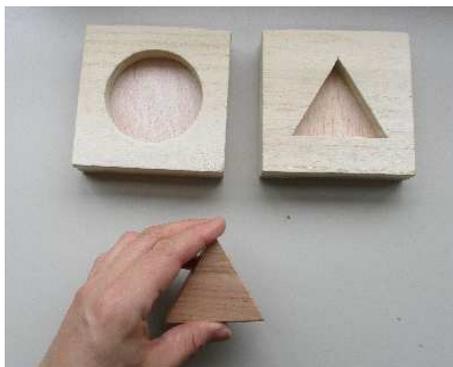


教材・教具の紹介

【型はめ】



目的	<ul style="list-style-type: none"> ・形の弁別。 ・認知発達を高める。 ・難易度が上がっていくと、相手の指示を受け止めて子ども自身の行動を変えて相手に合わせていくコミュニケーション力が育っていく。
使用方法	○・△・□の型に合わせて、形をはめる教材。子どもの手元に置いてある形をはめたり、指差したりする。

【ゴム抜き刺し】



目的	<ul style="list-style-type: none"> ・目と手の協応の課題。 ・ゴムを握って引っ張ったり、刺したりする手の機能の発達を高める。
使用方法	棒に刺さったゴムを握って抜いたり、ゴムを棒に刺したりする教材。握る、引っ張る、刺すなどの手指の力が必要である。ゴムを刺す深さによって、難易度が変わる。

【輪抜き】



目的	<ul style="list-style-type: none"> ・手と目の協応から、目と手の協応へと導く。 ・始点と終点の理解。 ・2方向、3方向と曲がり角を増やすと、運動の方向を切り替えなければならないため、難易度が変化。
使用方法	輪を棒から抜く教材。目で見、「どうやって輪を抜こうかな」と考え、身体の使い方を予測する。輪を持つ触覚の情報を得ながら、目を手元の輪に注視し、リングを抜いていく。

【ペグ差し】



目的	<ul style="list-style-type: none"> ・10までの数唱の練習。 ・目と手の協応の課題。
使用方法	ペグを持ち10個の穴に数唱しながら差ししていく。一本差すごとに鳴る音にも注目。差し終えたら下の板についた取っ手を引っ張り、ペグを落として再度繰り返す。

教材・教具の紹介

【改札と券売機】



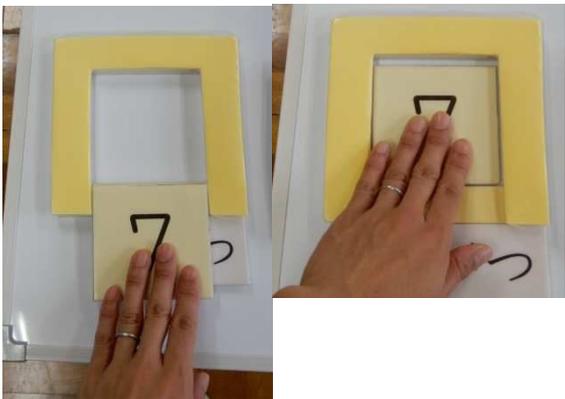
目的	・改札や券売機の使い方を知る。
使用方法	販売機のボタンを押して、お金を入れて購入。切符を持って改札口へ入れる。電子マネーは当てる。(※切符の取り付けは手動。) 改札口、券売機の切符を差し込んで取り付ける。

【リング落とし】



目的	・目と手の協応の課題。 ・数唱の練習。
使用方法	すべてのリングを上を持ちあげ一気に落とす。動きや音に集中して離席することが減る。1つずつ持ち、指導者と数唱しながら落として数を覚える。

【輪抜き】



目的	・目と手の協応動作。 ・目と手の協応動作が難しい実態の児童の係活動として、日付・曜日の型はめの活動を設定。
使用方法	コの字型に厚みをもたせた外枠の入り口にカードをセットし、前方にカードをスライドさせると枠にカードが入るという仕組み。

【収穫ゲーム】



目的	・数唱の練習。 ・目と手の協応の課題。
使用方法	生活科での野菜(ミニトマト、パプリカ、ニンジン)の栽培から発想した教材。実際の収穫の模擬体験ができる他、収穫した野菜を見つけて手を伸ばす(物の有無)、野菜の数を数える(3までの数量、5までの数唱)、野菜を配る、分類する等、算数科、小学部1段階の内容に関連させた学習でも使用した。

教材・教具の紹介

【肘固定台】



目的	指先に力を入れると、連動して腕の筋肉に力が入ってしまってねらった所に手を持っていくことが難しい児童生徒に、肘を固定して腕の可動部を制限することで指先の細かい作業をしやすくする教具。
使用方法	腕は左右にずれないように木のガードが設置してある。肘の下には、タオルが置かれており、活動内容に応じて高さを上下することができるようになっている。また、タオルの下にはすべり止めが設置されているので動くこともなくしっかりと固定されている。

【アヒルの1対1対応】



目的	1対1対応を、具体物で行うための教具。
使用方法	手で握ると、ちょうど手の中に納まるサイズのアヒルを使用している。色分け、数字も書いてあるので、この先発展的な活動も見据えた教具になっている。

【形合わせパズル】



目的	<ul style="list-style-type: none"> ・目と手の協応の課題。 ・色や形のマッチング。
使用方法	○、△、□の見本カードを見ながら、同じ形になるように2枚のカードを組み合わせる教材。○、△、□がそれぞれ違う色のもの、同じ色のものがあり、発達段階によって使い分けることができる。

【せんたくばさみ止め】



目的	<ul style="list-style-type: none"> ・10までの数唱の練習。 ・目と手の協応の課題。
使用方法	箱や丸型の紙についた印を見ながら、その位置に洗濯ばさみをとめる教材。指先の器用さを高めるために、できるだけ親指と人差し指でつまむように促して使用。発達段階によって、印と洗濯ばさみにそれぞれ色シールをつけることで、同じ色の場所にとめるようにする学習としても使用できる。

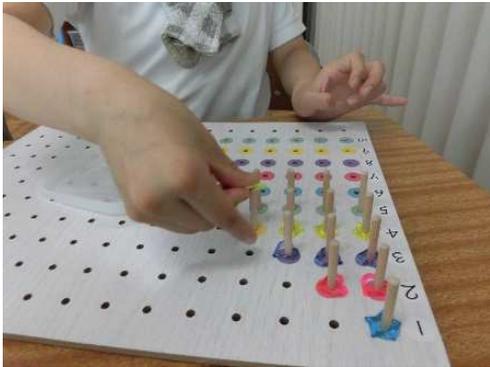
教材・教具の紹介

【書見台】



目的	・視覚障害のある児童生徒の視野の確保と姿勢保持。
使用方法	視覚障害のある児童生徒の視野の確保と姿勢保持のために、机に設置して、プリント学習や読書を行うための道具。正しい姿勢のまま視野を確保できることで、学習への集中力と意欲を高められる。また、背中の側わんや体のゆがみの進行を防止することにも役立つと考えられる。

【1～10までの数】



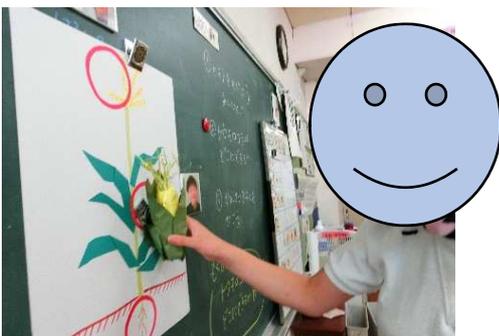
目的	・1～10までの数の概念を身に付ける。 ・色のマッチング。
使用方法	数字ごとに色分けされていて、数字の数の分だけプラスチックチェーンをペグに通す。数字の色に合わせたプラスチックチェーンを数字の数の分だけ用意しておくことで、むやみにペグに通すことを防いでいる。数字の概念が分からない子どもでも色合わせとして使える。

【校外学習支援カード】



目的	・校外学習の行き先や守ってほしいマナーなどの確認をし、見通しをもてるようにする道具。
使用方法	校外学習時に、行き先の写真や守ってほしいマナーなどが書かれたカードを組み合わせて提示する。手元の写真に注目することで、今から何をするか、次の目的地はどこか、などの見通しがもちやすくなる。マナーやルールが書かれたカードも入れることで、それらを守って行動しよう意識づけることもできる。生徒の実態に応じて、必要なものを組み合わせて活用することで、自分で指差しして確認しながら、参加することができる。

【トウモロコシはどこにできる?】



目的	・トウモロコシの実がどこにできるかを知る。
使用方法	始めに、トウモロコシがどの部分にできるのか模型をはって予想をさせる。赤の○を付けることで3つから選択できるようにした。その後、実際のトウモロコシの写真を見て、できている所を確認した後、改めてトウモロコシの模型をはらせることで、予想が間違っていた生徒もトウモロコシのできる場所を理解することができる。

教材・教具の紹介

【トウモロコシの成長】



目的	・トウモロコシの成長過程を知る。
使用方法	トウモロコシの成長の過程を振り返る、まとめの学習のために作成した。畑の写真のイラストを順番に並べるのは難しいと考え、イラストを作成した。大きさを分かりやすく変え、だんだん大きくなるように作ったことで、並べやすくなると思った。イラストを並べた後で、実際の畑の写真を対応させることで、自分たちが育てた実際のトウモロコシの成長過程と結びつけて理解することができる。

【色、形のマッチング】



目的	<ul style="list-style-type: none"> ・色、形、大きさの違いに気付く。 ・マッチングする。 ・指先の巧緻性を高める。
使用方法	個別の課題で使用する。色、形、大きさの違いに気付くこと、正しくマッチングできること、指先の巧緻性を高めること等を学ぶ課題となっている。

【学級新聞の見本】



目的	・新聞作りの参考。
使用方法	国語で「学級新聞をつくろう」という単元を設定した。生徒がどのような新聞をつくれればいいのかイメージをもつために使用する。特に色使いや写真、イラストの配置などを知るのに活用する。

【ごみ分別カード】



目的	・ごみの分別について知る。
使用方法	社会でごみの分別を学習する際に使用する。ごみの種類を伏せるように置き、「可燃ごみはどれ?」とお題を出して、トランプのようにゲーム感覚で学習する。

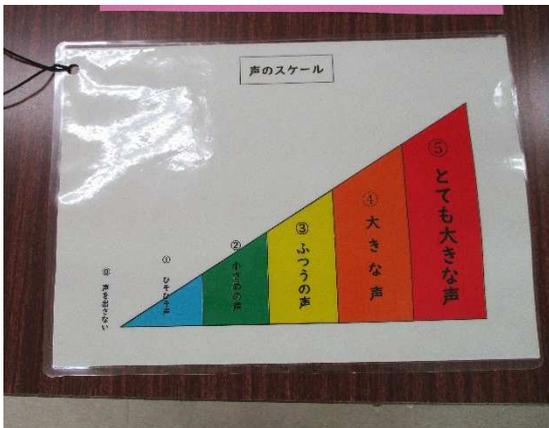
教材・教具の紹介

【じゅんばんにはろう!】



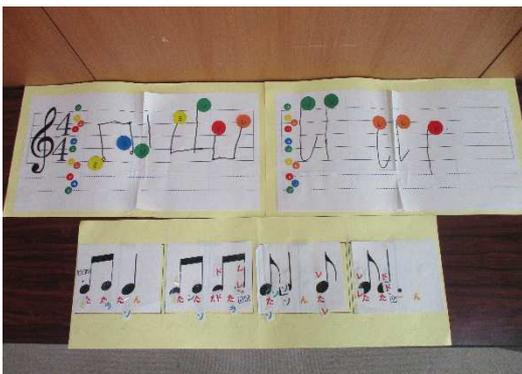
目的	・手順書を見て作業を行うための導入。
使用方法	シートに貼られている色を選び、順番通りにシートに貼る活動を行う。番号に従って貼ることに慣れてきたら、簡単な指示を書いた手順書に進む。

【声のスケール、気持ちのスケール】



目的	・声や気持ちなど、形のないものを視覚的に表現し理解を深める。
使用方法	<p><声のスケール> 場面に応じて声の大きさを考えるよう促し、声の大きさへの意識を高める。</p> <p><気持ちのスケール> 感情の表現や行動が適当でなかったときの振り返りや、人とのコミュニケーションについての授業で使用。自分や他人の感情についての理解を深め、互いが心地よく過ごすためにはどうすればよいのかを考える。</p>

【作曲シート】



目的	・音楽の創作。
使用方法	音楽の創作の授業で使用。2拍子の基礎リズムを組み合わせるリズムのまとまりを作った後(シート1)、ド、レ、ミ、ソ、ラの五音から音を選び、短いフレーズを作る(シート2)。

【自分の作品が分かる MY 刻印】



目的	・自分の作った製品を分かるようにする。
使用方法	作業の中で自分が作った製品が一目で分かるように、自分たちで選んだ刻印を準備する。製品づくりの際に、それぞれの刻印を粘土に押しつけて使用する。

教材・教具の紹介

【12か月の風物詩】



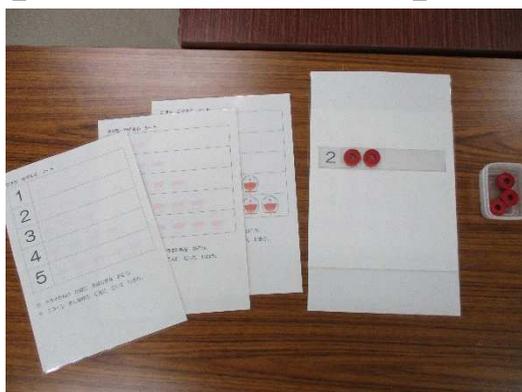
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の風物詩を知る。 ・目と手の協応動作の練習
使用方法	1月から12月までの風物詩を木工で表現した。児童生徒自身が自分で飾り付けることで、季節や行事等を感じることができる。組み立てには細かい動作が必要なものもあるので、目と手の協応動作の練習をする上でも有効である。また、学級の係活動として位置付けても、楽しく参加できる。

【砂絵】



目的	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を描く。 ・感触遊び。
使用方法	指か筆で、砂絵を書くと、背景の写真が透けて見える。背景の写真を変えることもできる。絵を描く、という目的以外にも、砂（サンゴ礁の砂）を手で触って感触を楽しむという使い方もできる。また、あえて何の説明もなく、子供のまえに置き、「自分で使用方法を見つける」という形もおもしろい。

【5までの数を数えよう】



目的	・5までの数を数えるためのシート。
使用方法	具体物を1～5まで順番に置かせ、正しく置き終えたら、「〇個ください。」と言葉掛けして指導者に手渡しさせる。キャラクターのシートの色の具合を薄めていき、最終的には「数字の形」のみを見て正しい具体物の数のみを手渡すことができるようにするのがねらいである。

【事情聴取メモ】



目的	・相手の話を正しく聞き取る。
使用方法	相手の話している事柄を正しく聞き取るための指導の第1段階として使用。簡単な質問を3つ程度書き、それを尋ねたい職員のところへ行って、直接質問し、メモを取らせる。最終的には、聞いた事柄を短期記憶し、正確に報告することができるようにするのがねらいである。